

立命館大学環太平洋文明研究センター第17回研究会

2017年11月13日(月) 18:00-19:30

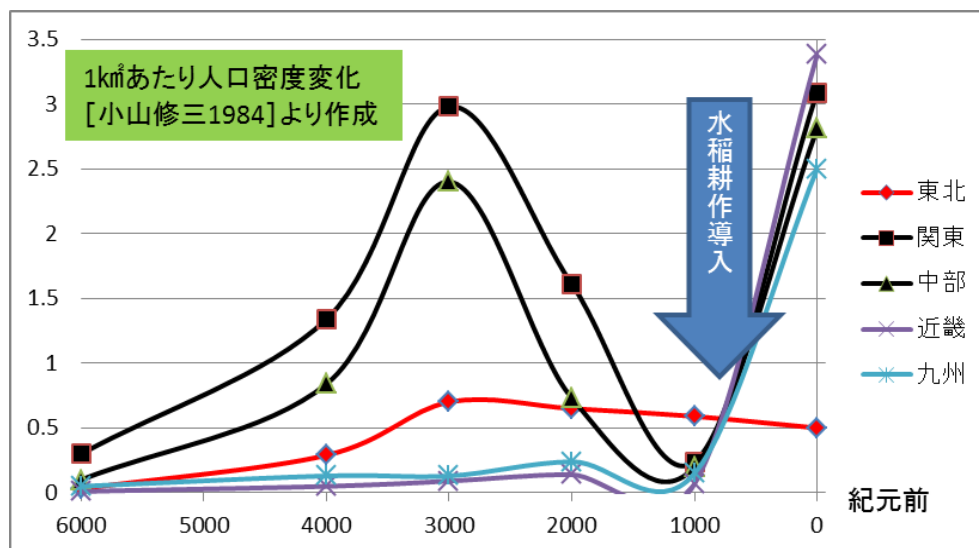
立命館大学衣笠キャンパス学而館2階研究会室1

縄文人のエコロジーを考える

—資源、持続性、土地利用—

神松 幸弘

(立命館グローバル・イノベーション研究機構助教：地理学・生態学)



約1万年にわたり持続した縄文時代は、豊かで自然にやさしい生活が営まれていたという考えもあります。意外なことに縄文時代の人口動態に関する研究は、現在でも多くありません。縄文人の資源利用と人口との関わりを検証する研究も限られています。縄文人の人口、資源利用について、考古学的知見と合わせて、生態学的から資源量や人口を左右する要因について考えます。今日、世界的な人口爆発が問題となり、かつ、日本国内では少子高齢化といった人口にまつわる問題が大きく取り上げられています。考古学、人類学、地理学による基礎的な人文学の視点から課題をとらえ直すことの意義について、皆様と一緒に考えていきたいと思います。

立命館大学環太平洋文明研究センターは「環境と文明のあり方を根本から問い直し、環太平洋地域の災害と文明の興亡を解明する」ことを目的としてつくられた人類学、環境考古学、地理学、考古学などの研究者からなる研究組織です。定例研究会には、学生、院生、教職員、どなたでもご自由に参加できます。今後、各分野の研究者が持ち回りで発表します。どうぞふるってご参加ください。

お問い合わせ先：環太平洋文明研究センター事務局 075-466-3335

HP：<http://www.ritsumei.ac.jp/research/rcppc/>